

日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定について

本学科の教育プログラムは、平成18年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラム認定を取得した。これにより、本学科の教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力養成に成功していることが認定されたといえる。

日本技術者教育認定機構(JABEE)は2005年6月に、技術者教育の質的同等性を国際的に認め合う枠組みワシントン協定(Washington Accord)への加盟が認められた。これにより、JABEE認定は国内で評価されるだけでなく、世界に通用する資格となる。また、認定プログラムの修了者は、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除され「修習技術者」となり、技術士の指導の下で技術士補として登録されることが出来るため、就職や仕事の上で有利となる。

1. プログラム名

情報システム工学科 教育プログラム

2. プログラムの理念(学科の理念)

計算機のハードウェアおよびソフトウェアに関する基本となる技術、数理情報に裏付けされたアルゴリズム技術、人工知能やマルチメディアを駆使した高度情報処理技術およびネットワーク構築技術など幅広い教育・研究を実施し、基礎技術から応用技術までバランスのとれた技術者の育成を目指すとともに、社会への貢献と世界への情報発信を行う。

3. 学習・教育目標

項目	記号	具体的な目標
教養教育	(A)	教養人文社会系の知識に基づいて、地球および人類の将来を保証するために多面的に物事を考えることができる。
技術者倫理	(B)	情報システムが社会のさまざまな分野に及ぼす影響を総合的に理解し、情報技術者としての社会に対する責任を理解できる。
工学基礎	(C1)	数学、自然科学に関する基礎知識が理解できる。
	(C2)	情報工学実験などを通してそれらを情報システム工学の専門分野に応用できる。
情報技術基礎	(D)	講義、演習、実験を通してコンピュータのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワーク技術の基礎およびその応用力を身につけることができる。
プログラミング能力	(E1)	プログラミング演習を通してプログラム開発環境を理解することができる。
	(E2)	プログラミングに関連した講義、およびプログラミング演習を通して経験に裏付けられたプログラミング能力を得ることができる。
情報数学	(F)	情報処理技術を支える数学理論およびその思考方法が理解でき、応用することができる。
マルチメディア	(G)	画像、音声などマルチメディア情報処理についての基礎原理が理解でき、応用することができる。
設計能力	(H1)	卒業研究において研究テーマの背景を学ぶことにより、社会の要求を理解することができる。
	(H2)	ハードウェア関連の講義でコンピュータシステムを設計するための知識を取得し、実際の実装実験を通じて与えられた制約の下で効率よく問題を解決するシステムの設計能力を身につける。また、卒業研究で、試行錯誤しながらテーマを完成させていくことで、技術者として必要なデザイン能力を身につける。
コミュニケーション	(I1)	技術英語で、社会人、国際人として必要なコミュニケーション能力を身につける。
	(I2)	卒業研究におけるゼミ、中間発表会、卒業研究発表会に参加することで、自分の意見を他人に理解させるのに必要なプレゼンテーション能力を身につける。
遂行能力	(J1)	情報工学実験や卒業研究で、テーマを完成させるための必要な知識を自主的継続的に学習することができる。
	(J2)	プログラミング演習、卒業研究で、与えられた制約の下で目標を達成する能力を身につける。

4. プログラム履修者の決定

本学科への入学または分属をもって対象者とする。

5. プログラムの修了要件

- (1) 本学科の卒業要件を満たすこと。
- (2) 学習保証時間の総計が1,800時間以上、その中の人文、社会科学の学習(語学教育も含む)が250時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習が250時間以上および専門分野の学習が900時間以上であること。

6. 認定分野

情報および情報関連分野

